（2021年度）グリーンファイナンスモデル事例創出事業

環境省

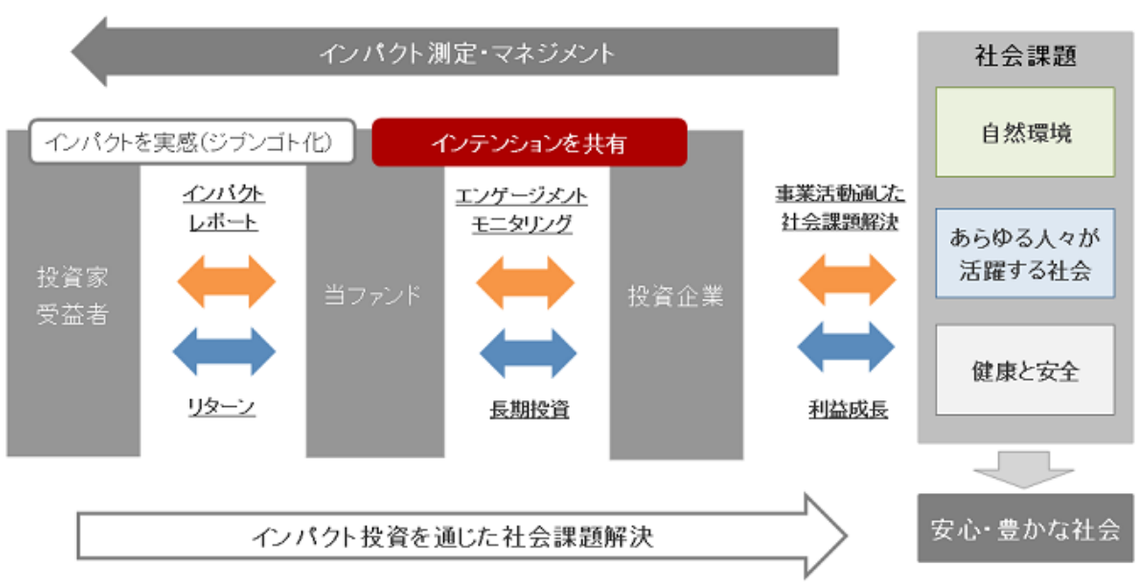
- **三菱UFJ信託銀行株式会社**が運営するファンドをモデル性を有するインパクト・ファイナンス（インパクト包括型）として選定。

インパクト・ファイナンス概要

- **名称：インパクト投資ファンド**
- **運営者：三菱UFJ信託銀行株式会社（MUTB）**
- **投資対象：国内上場株式　30～50銘柄**
- **運用規模：1,000億円を上限**
- **運用期間：2021年10月20日より試験運用開始。長期運用（5年超）を予定**

ファンド全体像

投資企業と課題解決に向けた意図（インテンション）を共有



[出所：MUTB]

GSG国内諮問委員会IMMワーキンググループ「インパクト測定・マネジメントに係る指針」及び「インパクト投資におけるインパクト測定・マネジメント実践ガイドブック」に沿ってインパクト投資を実践

投資戦略：インパクト志向を掲げ責任投資方針と整合性のあるポートフォリオのインパクト戦略を策定。インパクトと経済的リターンを両立できるビジネスモデルに投資して追加的なインパクト創出を目指す

組成・ストラクチャリング：一般財団法人 社会変革推進団（SIIF）の知見を活用し、世界のベストプラクティスや国際的な原則・フレームワークにも合うインパクト測定方法について検討してIMMプロセスを構築。ファンドマネージャーから成る運用チームとESG推進室が共同して、投資銘柄の選定、アウトカムの特定、インパクトKPIと目標値の設定を実施。運用チームは企業との対話を重視した運用を通して蓄積した事業評価のノウハウをESG推進室と共有して多面的にインパクトを分析

モニタリング・エンゲージメント：非上場株に比べ経営への関与が弱くなる上場株投資の特性を踏まえ、投資企業の選定において企業とインパクトの意図を共有できることを重視してエンゲージメント効果を高める方針

売却判断・レポーティング：インパクトビジネスの評価基準を満たさなくなったときや期待したインパクトの創出が見込めなくなったときに売却を検討。投資家に対して①エンゲージメント計画・進捗②インパクトKPI実績③ポートフォリオのESG情報を開示する予定

（2021年度）グリーンファイナンスモデル事例創出事業

環境省

- **三菱UFJ信託銀行株式会社**が運営するファンドをモデル性を有するインパクト・ファイナンス（インパクト包括型）として選定。

<モデル性>

①日本において国内上場株式を対象とする本格的なインパクト投資の運用事例はほとんどなく、世界においても模範とされる事例は極めて限られている中で、**世界のベストプラクティスや国際的な原則・フレームワークにも合うインパクトの測定・管理方法を実践的に取り入れている**。特に**GSG国内諮問委員会IMMワーキンググループが2021年5月に策定したインパクト測定・管理に関する指針・ガイドブックに沿って設計された国内上場企業のインパクトを包括的に分析するファンド**である。

②**運用者がインパクト志向を掲げ**責任投資方針と整合性のある**ポートフォリオのインパクト戦略を策定**している。網羅的な基礎調査と有識者の知見を取り入れるなどして特定する重大なESG課題からインパクトテーマを特定した上で、**課題マップやロジックツリーを用いた多面的な分析から社会課題を構造化し原因を掘り下げて企業が解決できる個別課題を特定**する。投資先企業が課題に対してインパクトを生み出すビジネス（インパクトビジネス）の成長に着目して銘柄を選定。**現時点ではインパクトビジネスの利益構成比が過半に至らない企業でも、将来当該ビジネスが企業全体の利益成長を牽引する場合は投資対象に含める**。さらにロジックモデルを用いて長期アウトカムから因果関係を遡ることによって、**追加性を計測しやすいKPIと目標を設定**している。また非上場株に比べ経営への関与が弱くなる上場株投資の特性を踏まえ、投資企業の選定において**企業とインパクトの意図を共有できることを重視することでエンゲージメント効果を高める**方針である。

③投資先企業側にはインパクトKPIを設定し、**インパクト達成に向けたモニタリングの中でエンゲージメントとネガティブインパクトの評価を継続的に実施するため、事業分析の経験が豊富なファンドマネージャーを運用チームに専属させ責任投資の専門人員と連携してインパクトを管理する**体制を整えている。